

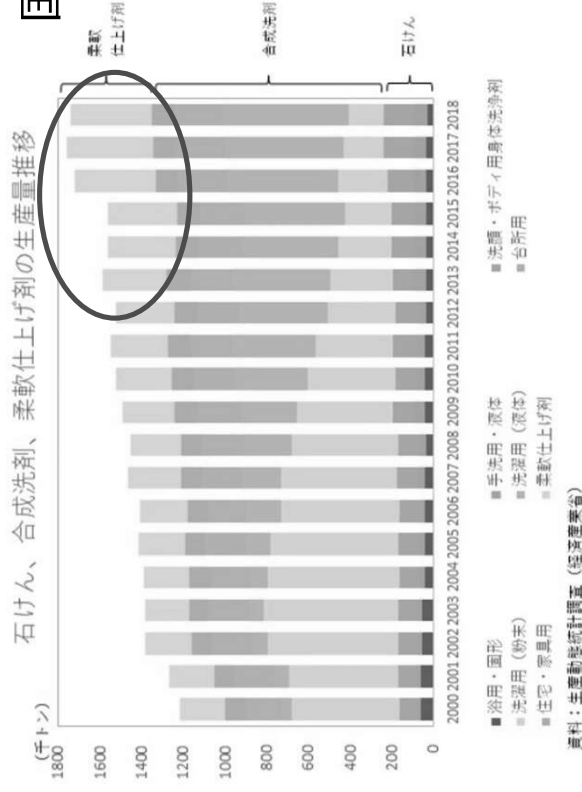
子どもの「香害」と環境過敏症状に 関する全国調査の中間報告 ～「香害」と教育現場の諸問題に関する 解析結果～

寺田 良一（明治大学名誉教授・環境社会学）

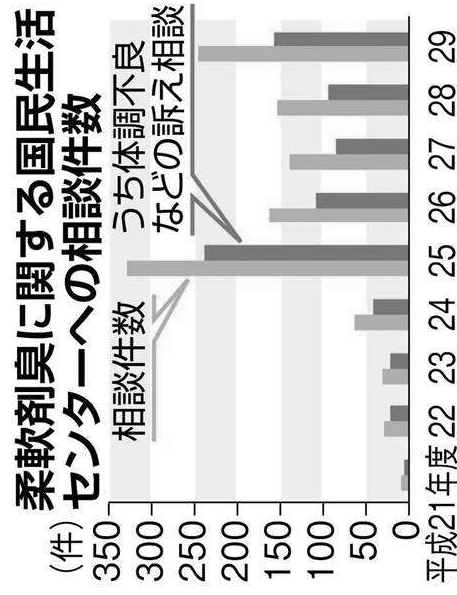
2025.8.20

香害の問題化と消費者運動の展開

2010年代に入り、柔軟剤の流通量が増大



国民生活センターへの相談件数増加



「香害をなくす連絡会」、患者の全国組織化、「香害をなくす議員の会」の設立

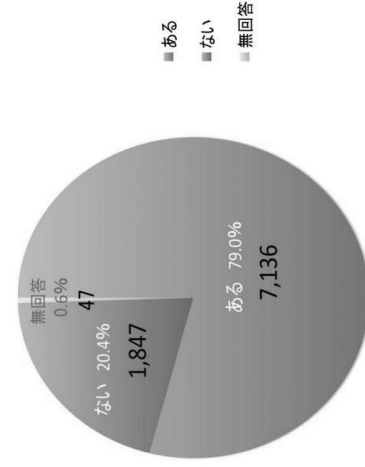
- 2017年、日消連、「香害110番」電話相談を開設
- 2017年、「香害をなくす連絡会」結成
日本消費者連盟、日消連関西グループ、ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議、有害化学物質削減ネットワークなど消費者運動、環境運動団体で
- 2021年、香害被害者(+支援者)の全国組織、「カナリア・ネットワーク全国」設立
- 2022年、「香害をなくす議員の会」発足、当初98名⇒2025年7月現在151名の主として地方議員が参加



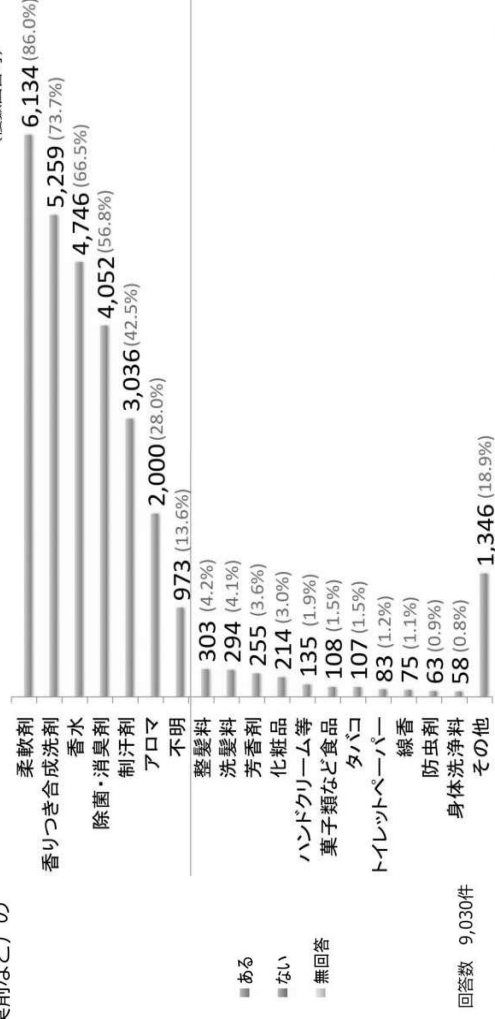
3

2019-20年に香害アンケート調査実施(無作為抽出ではない) 79.0%が被害、原因(複数回答)は、「柔軟剤」(86.0%)、「香りつき合成洗剤」 (73.7%)、「除菌消臭剤」(56.8%)など

1. 香りつき製品（柔軟剤や香りつき合成洗剤、消臭剤など）の
において具合が悪くなったことがありますか？



2. 以下は「ある」と回答した方に質問です。どんな製品ですか？
(複数回答可)



香害被害「ある」と回答した7,136人対象

4

議員の会の出身自治体(兵庫県宝塚市と北海道厚岸町)での 小中学生の香害実態調査(2023年)とより専門的な全国規模 の学術調査の必要性

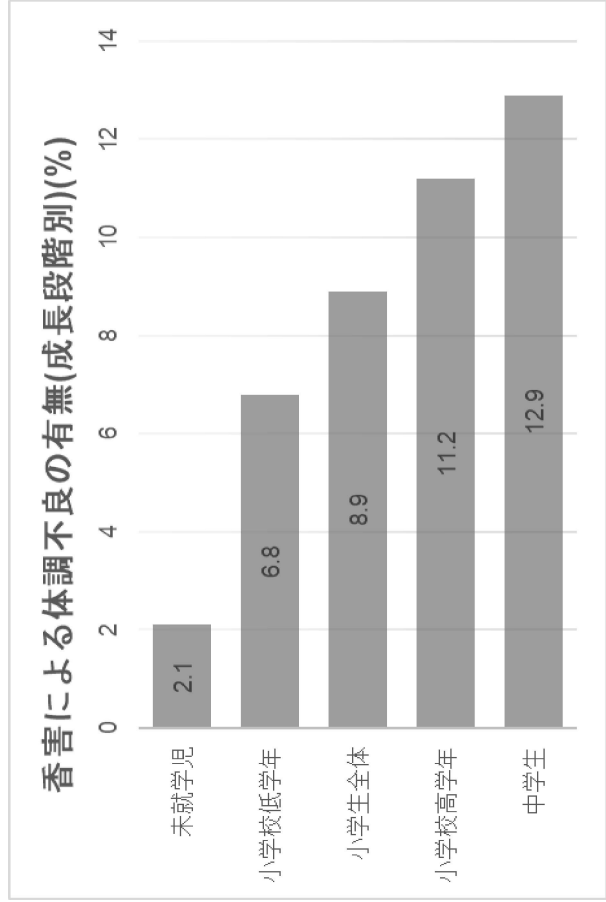
- 兵庫県宝塚市、2023.5実施 • 北海道厚岸町、2023.9実施
- 小学生 2,223人、中学生 864人 ・ 小学生304人、中学生144人
- 「香りに不快感」は、小学生26.2%・「香りに不快感」は、小学生19.7%、中学生32.1%
- 「体調不良」は、小学生7.4%、中 • 「体調不良」は、小学生11.2%、中学生8.9%
- 日本臨床環境医学会研究者有志との共同研究へ

専門的な全国規模の学術調査の必要性と実施

- 日本臨床環境医学会、室内環境学会で化学物質過敏症の問診票(QEESI)研究をされてきた北條祥子・尚絅学院大学名誉教授、児童・生徒の化学物質過敏症の実態調査をしてきた永吉雅人・新潟県立看護大学准教授らの指導を受け、研究者有志が質問紙を作成
- 「香害をなくす議員の会」の地元自治体中心に教育委員会に調査実施の協力依頼
- 調査協力を得られた学校・園の保護者に対し、グーグル・フォームで調査を実施(調査期間：2024年5月～2027年3月)
- 集計対象者数は、全体(園児含む)で10,071名、小中学生は8,012名



「香害による体調不良経験あり」は、
全体で8.3%、小中学生全体で10.1%、成長とともに増加
症状は、腹痛、頭痛、頭痛、関節痛など



(%)	全 体	中学 生
腹痛・胃のムカムカ・吐き気・下痢	4.4	7.0
頭痛・頭が重い	3.6	6.5
関節痛、筋肉痛、脱力など	2.8	4.6
鼻水・鼻づまり	1.6	2.2
目の痛み・かゆみ	1.3	1.7

7

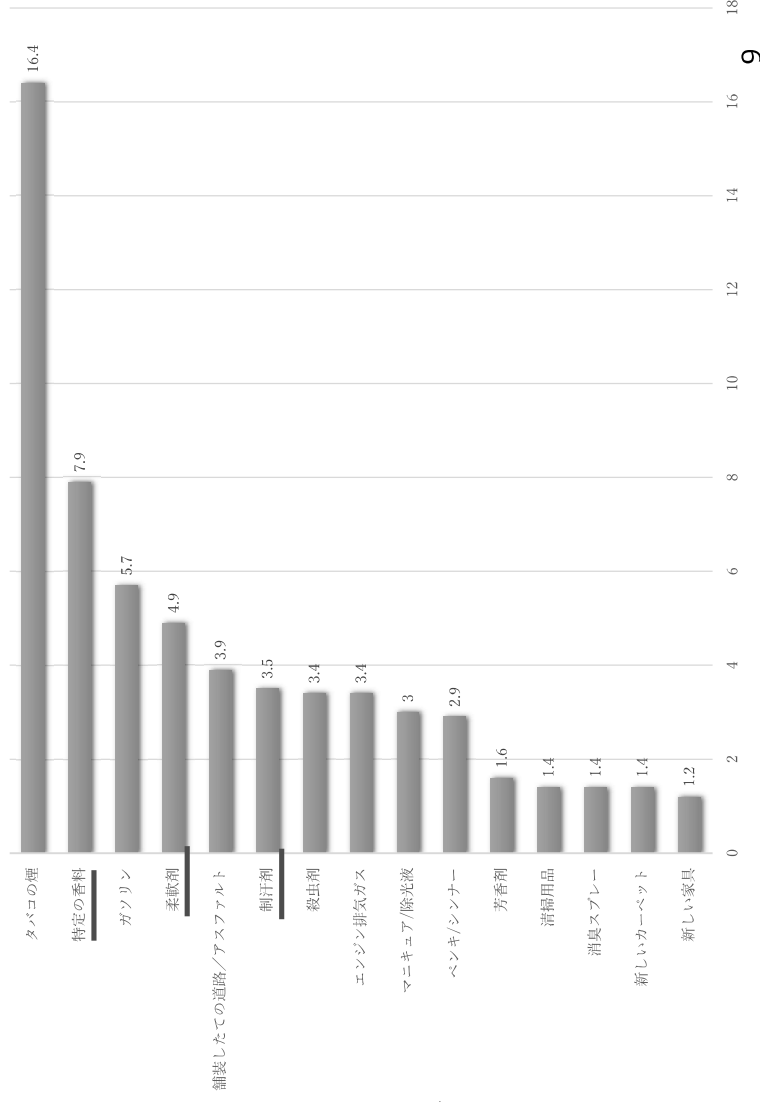
子どもたちは、教室内で香害を体験することが多い(4.4%)
他には「交通機関」(3.2%)、「店舗」(2.1%)、「自宅・隣家」(1.8)
「香害による体調不良」が不登校につながる場合もある

	小学校 低学年	小学校高 学年	中学生	全体(園 児含む)
香害を「学校で体験することがある」	3.7	5.5	7.0	4.4
「教室から外へ出ると症状が軽くなることがある」	4.8	7.5	9.0	5.8
「クラスメートの服や持ち物、髪、給食白衣などの香りが気になったり、嫌だったことがある」	4.7	7.4	9.5	5.7
「香りが原因で登園・登校を嫌がることがある」/「香害体調不良あり」	1.9/6.8	2.5/11.2	2.9/12.9	2.1/8.3

8

化学物質に対する過敏症状の発症原因となる物質として、「特定の香料」、「柔軟剤」、「制汗剤」などの「香り」系の商品のウエイトが高い

化学物質過敏症状の原因物質（園児含む全体）（％）



まとめ

- ◆ 本調査は、初の学術的な香害の全国調査であり、その意義は大きい
- ◆ 宝塚市、厚岸町の先行調査の結果は、かなり一般的、全国的にみられる傾向であることが確認された。継続して推移を観察すべきである。
- ◆ 未就学児では2年前後の「香害体調不良経験」が、成長ないし学校生活の継続とともに漸増し、小学校高学年以降は10%台に乗る。「不快」レベルの「香害」(宝塚市、厚岸町)を含めれば、すでに多数の児童生徒が香害の被害を受けているといえる。
- ◆ 体調不良として、腹痛、頭痛、筋肉痛などが訴えられており、これらのかなりの部分が教室で体験されるので、香害で学習環境が損なわれている実態がうかがえる。学校教育環境の問題として、北米におけるフレグランス・フリー政策、公的空間のケミカルなバリアフリー化の推進が検討されるべきである。
- ◆ ご清聴ありがとうございました。